

富士山の高標高地域におけるニホンジカ捕獲の実施について

静岡森林管理署 入江明寛

○背景

図1：GPS首輪によるニホンジカ行動パターンの分析
(静岡県森林林業研究センターのシカ移動調査、H22～24年)

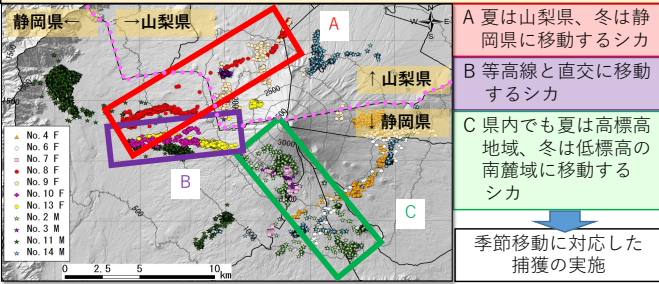


図1の調査から、富士山国有林内においてA～Cの行動パターンが確認されていたが、高標高地域は登山者が多く、安全確保の観点から捕獲を実施することは困難とされていた。

図3：Google Earth位置図

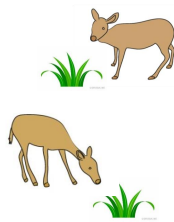
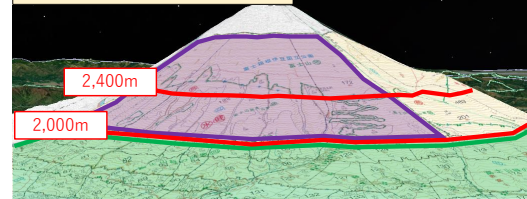
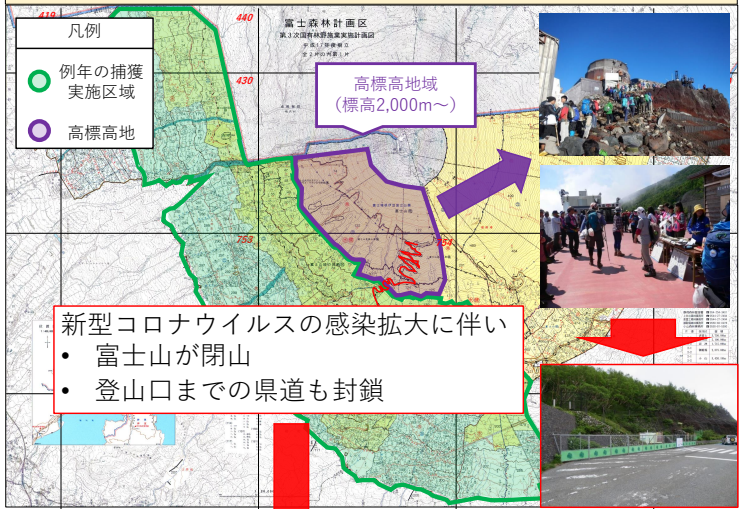


図2：令和2年度の富士山国有林内におけるニホンジカ捕獲事業位置図



高標高地域でのニホンジカ捕獲事業が初めて可能になった！

○方法

捕獲方法 (忍び猟)



バックストップのある安全な箇所を予め捕獲場所として設定し、三頭以下の群れを優位個体(親)から順に、全頭確実に捕獲する。

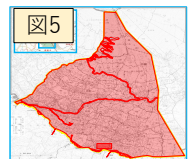


専用の笛によりシカを誘引(コール)。



センサーカメラからリアルタイムで送信された画像によりシカの位置を把握し、効率的に捕獲する。

安全管理



○結果

実際に高標高地域で捕獲を実施し、図1の調査の結果と同様の行動パターンが確認された。このことから、年間を通じたこの地域のシカの行動は大きく変動しない。

①高標高地域の個体に比べて、低標高地域の個体の方が先に交尾期に入ったことが確認された。

②これまで低標高地域で見られなかった大きなオスの個体が、高標高地域に生息していることが確認された。大きなオスの個体の季節移動は少ないと考えられる。



本事業で忍び猟により捕獲した227頭のうち54頭は高標高地域で捕獲

交尾期である秋(9～11月)は北側から捕獲を開始することが望ましい。さらに数年間行動を観察し、より正確なシカの行動について把握したい。

高標高地で交尾前にオスジカを重点的に捕獲することによって、メスの交尾の機会が減り全体の頭数を減らすことができる。

○今後について

安全管理を徹底することによって、これまで捕獲が困難とされていた高標高地域における捕獲が可能！